日本観光研究学会・関西支部ニューズレター

観光学

第１号　2012年度
（2013年３月発行）

JITR-Kansai
Japan Institute of Tourism Research
No.1

写真：富田林寺内町（撮影：小長谷）

日本観光研究学会・関西支部（JITR-Kansai）
ニューズレター『観光学』第１号　2012年度（2013年３月発行）

１．関西支部ニューズレターの発刊おめでとうございますー会長のことば

日本観光研究学会は1986年設立、会員数は約900名の観光研究における日本最大の学術団体となりました。学術論文集や機関誌等の発行、研究発表会や学術講演会の開催、観光研究に関する外国諸団体との交流、研究の奨励と研究業績の表彰等を目的としています。

当学会には関西支部（2003年７月設立）と九州・韓国南部支部（2007年４月設立）の２つの支部があります。その支部活動においては研究・交流はもとより観光関連の行政組織、観光促進機関、企業等との連携促進が主な目的となっていますが、特に関西支部の「関西から観光立国・立圏を考える」意見交換会、地区懇話会、観光学研究部会、そして支部が中心となって2004年設立されたNPO法人観光力推進ネットワーク・関西の活発な活動は学会内外の注目を集めています。その成果をニューズレターで紹介されるということは大変喜ばしいことであり、かつ学会活動を外部へ知らしめる大きな効果が期待できるでしょう。関西支部の益々のご発展と会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

日本観光研究学会会長　桑田政美（京都嵯峨芸術大学）

２．ニューズレター発行を記念してー関西支部支部長のことば

日本観光研究学会関西支部は2003年７月阪南大学堀川紀年教授を中心に関西の大学及び研究機関関係者によって創設されました。堀川支部長、前田弘事務局長のもとでスタートし、関西の観光研究のプレゼンスを上げるべく様々な研究、活動を進めて参りました。立ち上げに尽力したお二人をあいついで病気で失う残念な事態を経験いたしましたが、２代金井萬造支部長、３代桑田政美支部長によってその意志が引き継がれ、関西の観光研究の拠点として成長して参りました。中でも関西の行政、業界の方をお招きしての「関西から観光立国・立圏を考える意見交換会」や支部会員が訪問して地域の観光振興を考える「地区懇話会」は恒例の行事となり、観光関連業界への貢献、地域への

貢献という支部創設の目的を果たしております。また観光研究についても観光サロン、観光研究部会を開催し、観光及び観光関連分野の方との研究交流の場を創りあげて参りました。さらに、支部役員を中心に2004年立ち上げたNPO観光力推進ネットワーク・関西への支援を通して「地域創造のための観光マネジメント講座」を開催し、関西圏の観光人材養成にも貢献して参りました。

このような活動をさらに皆様に知っていただくため、この度関西支部ニューズレター「観光学」の発刊することと致しました。多くの方と情報を共有し、研究教育、地域、業界への支援機関としてさらに発展的に研究活動範囲を広げ、充実した学会支部活動を進めて行くことにより日本の観光研究及び地域・業界支援に貢献し続けて参りたいと思います。皆様からのご指導、ご協力をお願い申し上げます。

日本観光研究学会関西支部長　吉兼秀夫（阪南大学）

３．『観光学』発行にあたりー関西支部副支部長のことば

この度の関西支部ニューズレター発行にあたり、皆様には日ごろのご支援に心より感謝申し上げます。

私こと、関西支部に入りましたのが、７年ほど前になります。当時、着地型の研究会が発足し、私も加わらせていただきました。また、地区懇話会では、まち歩きをしながら、地域の観光を皆さんで議論したりしました。このように支部ではさまざまな地域の方々との連携を深めながら今日に至っています。

加えて、NPO活動も活発に行われてきました。中でも学生の自主的な活動をサポートする学生連絡協議会が立ち上がり、今では約50人の大学・短大の学生が、横断的に観光で結びつき、頑張ってくれていることを大変頼もしく感じています。

支部の活動は、一人ひとりの先生方が、幅広い学会活動を支えてくださっていることで成り立っています。このニューズレターの発行が、ますます関西支部の学術と観光分野の人材育成といった多面的な発展につながりますよう祈念いたしますとともに、今後ともわが国の観光の発展にお力添えを賜りますようよう衷心よりお願い申し上げます。

日本観光研究学会関西副支部長　国枝よしみ（大阪成蹊短期大学）

４．支部活動１『関西支部総会』＋『第９回　意見交換会：関西から観光立国・立圏を考える』

【日　　時】2012年５月12日（土）総会11:30 ～ 12:00、意見交換会13:00 ～ 17:30

【会　　場】日刊工業新聞社大阪支社ビル10階

【総会議案】支部役員、2011年度活動報告および収支決算、2012年度活動計画および収支予算

【意見交換会プログラム】

１）特別講演（13:05 ～ 13:35）

国土交通省近畿運輸局企画観光部長 森 宏之 氏「観光立国の実現に向けた取組と災害復興」

２）基調講演（13:35 ～ 14:20）

和歌山県副知事 下 宏 氏「和歌山県における台風12号の被害状況と観光振興の取り組みについて」

３）パネルディスカッション（14:30 ～ 16:30）

「観光力による関西の災害復興～元気関西づくり」パネリスト：森 宏之 氏（国土交通省近畿運輸局企画観光部長）、下 宏 氏（和歌山県副知事）、久保田 幸治 氏（奈良県観光局長）、清水 苗穂子（日本観光研究学会理事・阪南大学准教授）。コーディネーター: 吉兼 秀夫（日本観光研究学会常務理事・阪南大学教授）、総合司会は、峯俊 智穂（四天王寺大学専任講師）

４）意見交換（16:30 ～ 17:30）参加者との質疑応答、情報提供
５）交流会（18:00 ～ 20:00）

５．支部活動２『地区懇話会』（写真は最終頁）

【日　　時】2013年３月２日（土）10:00 ～加西市ガイドツアー、14:00 ～ 16:00シンポジウム
【会　　場】加西市、シンポジウムは、アスティアかさい３階 多目的ホール（兵庫県加西市北条町北条28番地の１北条鉄道北条町駅前）
【テ ー マ】「加西市観光フォーラムー楽しみの舞台をつくる観光まちづくりー」

日本観光研究学会関西支部では、吉兼支部長が中心となり、観光まちづくりをめざした加西市の観光推進基本計画の策定の協力をしており、平成24年度地区懇話会は下記の通り、加西市において、加西市観光まちづくり協会と共催で開催しました。現地視察および作業結果の報告を受けながら、吉兼支部長による、着地型観光、観光プラットフォームの形成、「図と地」を意識した観光まちづくりについてのご講演のあと、共に議論し、地元の方との懇親も深めました。

【加西市ガイドツアー】

11:00に北条バス停出発→五百羅漢（小学生の定点ガイド、学校の教育事業）→住吉神社→酒見寺→北条の歴史的まちなみ（ボランティアガイドさん）→北条鉄道見学

【プログラム】

１）「加西市観光振興基本計画」骨子説明　加西市の観光の現状と課題、今後の方向　吉兼 秀夫
２）市内観光まちづくり団体事例（「人間サイズのまちづくり賞」受賞団体）の紹介　(1) 歴史街道つどいの会　水田 加代子 氏（奨励賞）　(2) 鶉野中町花家族の会　尾花 幸雄 氏（知事賞）
３）パネルディスカッション　パネリスト：北条まちづくり協議会　松元 正光 氏、NPO法人MORE地球家族　村上 尚美 氏、株式会社地域計画建築研究所　高田 剛司 氏、コーディネーター：阪南大学国際観光学部　教授　吉兼 秀夫
４）懇親会（懇話会終了後17:00 ～）

６．支部活動３「観光学研究部会」

（１）第６回観光学研究部会

【日　　時】2012年７月24日（火）19:00 ～
【会　　場】阪南大学サテライト（淀屋橋）
【テ ー マ】「コンテンツツーリズム研究の現状と課題ーライトノベル／アニメ作品『涼宮ハルヒの憂鬱』の事例を中心に」
【講　　師】神戸夙川学院大学観光文化学部　原 一樹 氏
【資料要旨】

０．観光研究に至った経緯
１．日本におけるコンテンツツーリズム研究の現状

＊「コンテンツ」という語について　＊「コンテンツツーリズム」という語について　＊「コンテンツツーリズム」に期待される効果と課題　(1) 地域の経済振興・住民の愛着心の向上　(2) 観光資源の創出・魅力の向上　＊　課題　(1) 観光資源の創出　(2) 住民の理解・共感・参加の促進　(3) コンテンツを活かした観光プロモーション　(4) 推進体制の確立　＊英語表現：Film-induced tourism, Cinematic Tourist, Film and TV tourism, Literary tourism

＊日本における先行研究　→　観光振興に関する事例研究、イメージ研究　→　『物語を旅するひとびと』、

『アニメ・マンガで地域振興』の刊行　＊　先行研究者による「コンテンツツーリズム」の定義　＊「ツーリズムの中のコンテンツと、コンテンツの中のツーリズム」(岡本・2011)　・「ツーリズムの中のコンテンツ」＝コンテンツが関係する観光振興や旅行行動　①コンテンツを動機とした旅行行動やコンテンツを用いた観光振興　②旅行の途中のコンテンツに関する研究　③旅行や観光の目的としてのコンテンツ　・「コンテンツの中のツーリズム」　①コンテンツ作品の中の観光振興や旅行行動　②コンテンツ自体による非日常性の体験

＊「コンテンツツーリズム」＝「文学ツーリズム」＋「映画ツーリズム」＋「サブカルチャーツーリズム」

＊「サブカルチャーツーリズム」＝「聖地巡礼」＋「イベント」＋「施設など訪問」

２.『涼宮ハルヒの憂鬱』事例調査　現状報告

＊日本政府観光局　アニメマップ、＊　「アニメ聖地巡礼」先行研究　＊「アニメ聖地巡礼」成立パターン（山村2011）→「旅行者先導型」・「ＦＣ型」　＊　巡礼者の活動　【巡礼中】　①写真撮影　②「痛絵馬」奉納　③交流　【巡礼後】　①ブログ　②同人誌

＊　関連する諸活動　①マップ作成と配布　②イベント開催　③グッズ販売　＊『涼宮ハルヒ』ファンダム（ファン集団）の状況　＊　その他のプレイヤーの状況　＊　様々なプレイヤーの相互交渉　＊　現時点での「ハルヒ巡礼」に関するポイント　＊　「アニメ聖地巡礼」全体の研究枠組み

３．コンテンツツーリズム研究の課題

＊問題「そもそもどのような立場の者として、誰の為に、何の為に調査・研究するのか。」・山村（2011）による提案　①コンテンツツーリズム開発を通して、グローバル化や情報化が、地域資源や地域既存のコンテンツへ与える負のインパクトを最小限に抑えること。 ②コンテンツツーリズム開発を通して、地域資源・地域既存のコンテンツを守り、より豊かな資源・コンテンツとして再構築すること。 ③更には次世代に残る新たなコンテンツを創造していくこと。・実践者、媒介者、観察者、発掘者・・・としての研究者。岡本（2011）を踏まえると、「どの意味でのコンテンツツーリズムを調査・研究するか」により解答も異なってくると言える。

＊問題「コンテンツツーリズムは、観光研究の基礎的諸概念・諸事象とどのような関わりを持つか。」 ①訪問動機について　②目的地のイメージ形成について　③「真正性」について　④ツーリスト経験について　⑤「写真」について　⑥メディアの役割について　⑦「巡礼」という言葉について

＜まとめ：今後の調査・研究・議論の方向性＞・「コンテンツツーリズム」という語の定義や使用に関する議論・個別事例調査の蓄積とジャンル横断的な比較研究・より幅広い経験的・概念的な観光研究の文脈への接続

【参考・引用文献は省略させていただきました】

（２）観光学研究部会特別報告

【日　　時】2012年９月25日（火）19:30 ～
【会　　場】阪南大学サテライト（淀屋橋）
【テ　ー　マ】「麗水万博」視察報告
【講　　師】京都嵯峨芸術大学　桑田 政美 氏

（３）第７回観光学研究部会

【日　　時】2012年10月11日（火）19:00 ～
【会　　場】阪南大学サテライト（淀屋橋）
【テ　ー　マ】「観光空間の生産と地理的想像力」
【講　　師】和歌山大学　神田 孝治 氏

（４）第８回観光学研究部会

【日　　時】2013年３月26日（火）19:00 ～
【会　　場】阪南大学サテライト（淀屋橋）
【テ ー マ】「『資源論』における観光資源」
【講　　師】神戸国際大学　米浪 信男 氏

７．支部活動４「はなやか関西～文化首都年～」（担当：国枝副支部長）

近畿地方整備局より、10月のフォーラム開催にあたり学生の研究発表の依頼があり、協力させていただきました。その結果、５団体の応募がありました（関西学院大学、立命館大学（２グループ）、大阪成蹊女子短大、奈良朱雀高校）。当日は基調講演、学生による実演、文楽公演と盛況のうちに終了。

（１）はなやか関西～文化首都年～「人形浄瑠璃」フォーラム（2012年10月６日開催）
http://www.kkr.mlit.go.jp/kokudokeikaku/program/data/2012/hanayaka/forum.html

（２）はなやか関西～文化首都年～「茶の文化」in 茶源郷「和束」（2013年２月23日開催）
学生発表会
http://www.kkr.mlit.go.jp/kokudokeikaku/program/data/2011/hanayaka/pdf//wazukaevent.pdf

（３）留学生モニターツアー（2013年３月６日開催）
http://www.facebook.com/media/set/?set=a.432779430135441.1073741828.267959413284111&type=1

８．支部幹事会開催記録（2012年度）

第１回　2012年４月24日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第２回　2012年５月29日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第３回　2012年６月26日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第４回　2012年７月24日（火）18:00　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第５回　2012年９月25日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第６回　2012年10月30日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第７回　2012年11月27日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第８回　2012年12月18日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第９回　2013年１月29日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第10回　2013年２月26日（火）18:30　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）
第11回　2013年３月26日（火）18:00　～　会場:阪南大学サテライト（淀屋橋）

９．関連活動　NPO法人「観光力推進ネットワーク関西」

（１）大阪府助成事業「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」「農と食と観光まちづくりモデル事業」

「農と食と観光まちづくり協議会（NPO法人観光力推進ネットワーク関西、富田林市観光協会、富田林市、大阪府他10団体）」を設立。「寺内町のまちづくり＋観光＋農の６次産業化」を応援するプロジェクトである。第２回総会【日時】2012年７月５日（木）18:00 ～【会場】富田林市寺内町センター。イベント『楽食 楽まち じないまち』【日時】2012年10月10日（土）～12月２日（日）。第３回総会【日時】2013年１月30日（木）18:00 ～【会場】富田林市寺内町センター。成果報告シンポジウム『寺内町周辺の農との連携によって生み出す寺内町での交流文化の意義』【日時】2013年３月４日（月）12:30 ～まちあるきツアー、14:00 ～シンポジウム【会場】大阪府南河内府民センター、コーディネーター：吉兼秀夫（農と食と観光まちづくり推進協議会会長）、パネリスト：佐藤耕平（LLPまちかつ）、杉本郷志（OASIオーナーシェフ）、高橋博美（NPO富田林自然農法根っ子の会）、金銅俊哉（富田林市富田林駅南地区整備課課長）、森口治（大阪府富田林土木事務所参与）。

【富田林寺内町におけるシンポジウム記録（2013年３月４日）撮影：小長谷】（３番田中家、５番OASI、６番飛鳥）

（２）第７回「地域創造のための観光マネジメント講座」2013年１月～２月に開催

【ステップ１：地域創造型観光の基盤：地域資源の再発見と再評価の方法】

第１回：2013年1月12日（土）9:30 ～ 11:00　阪南大学教授　吉兼秀夫「地域資源活用の第１歩：「エコミュージアム」の方法」　第２回：2013年1月12日（土）11:10 ～ 12:40　地域計画建築研究所　研究主査　高田剛司「着地型観光の担い手」　第３回：2013年１月12日（土）13:30 ～ 15:00　京都嵯峨芸術大学教授　真板昭夫「持続可能な観光運営の方法」　第４回：2013年１月12日（土）15:10 ～ 16:40　阪南大学教授　吉兼秀夫「ワークショップ１：「宝探し」（地域資源の再発見と再評価）の机上演習」

【ステップ２：地域創造型観光の計画：地域資源の観光への活用方法】

第５回：2013年１月26日（土）9:30 ～ 11:00　阪南大学教授　森山正「マーケティング／顧客満足と従業員満足」　第６回：2013年１月26日（土）11:10 ～ 12:40　摂南大学准教授　野村佳子「高品質なサービスを提供するには」　第７回：2013年１月26日（土）13:30 ～ 15:00　神戸夙川学院大学准教授　原一樹「観光と情報・メディア」　第８回：2013年１月26日（土）15:10 ～ 16:40　阪南大学准教授　清水苗穂子「ワークショップ２：地域創造型観光のマーケティング演習」

【ステップ３：地域創造型観光の運営：事業継続の方法】

第９回：2013年２月２日（土）9:30 ～ 11:00　京都嵯峨芸術大学教授　桑田政美「プロモーションとイベントの活用方法」　第10回：2013年２月２日（土）11:10 ～ 12:40　地域計画建築研究所部長代理　小阪昌裕「観光マネジメントとまちづくり」　第11回：2013年２月２日（土）13:30 ～ 15:00　立命館大学教授　金井萬造「制度の活用と資金の調達」　第12回：2013年２月２日（土）15:10 ～ 16:40　大阪市立大学大学院教授　小長谷一之「観光のマネジメントと地域づくり・まちづくりの法則－地域創造型観光のマネジメント７つの法則」

第13回：2013年２月９日（土）13:00 ～ 17:30　講師全員「ワークショップ３：受講者による地域創造型観光のプレゼンテーション」前回終了後、受講者は地域創造型観光のプロジェクト計画書を作成し、受講者全員でミニ･プレゼンテーションしました。

（３）学生連絡協議会（担当国枝先生）

役員会議＆観光eco活動ミーティング【日時】2012年４月６・19・25日、【企画】学連協2012親睦会【日時】５月10日、【活動】第５回総会【日時】５月12日、役員会議＆観光eco活動ミーティング【日時】６月、【活動】金剛山クリーンハイク【日時】７月29日（日）27名参加、クリーンハイク活動下見＆事前ミーティング【日時】７月９・25・31日、夏合宿下見＆事前ミーティング【日時】８月21・25日、【活動】学連協2012観光力強化！夏合宿【日時】８月29・30日、地域活性化事業【日時】９月、【活動】熊野古道クリーンウォーキング【日時】10月13日、役員会議＆冬の大運動会ミーティング【日時】2012年11月、【企画】学連協2012忘年会【日時】12月10日、役員会議＆冬の大運動会ミーティング【日時】2012年12月19日、役員会議【日時】2013年１月７日、【企画】学連協2012冬の大運動会【日時】１月16日、第６回学生連絡協議会準備総会開催【日時】2013年２月16日（土）13:00 ～【会場】阪南大学サテライト。

10. 支部新年度の予定　2013年度　関西支部総会・意見交換会、学生連絡協議会について

2013年５月18日（土）に開催予定、会場は「大阪駅前第２ビル」大阪市立大学大学院創造都市研究科梅田サテライトか生涯学習センターないし大学コンソーシアムの教室を想定。

関西支部地区懇話会　於 加西市
2013年３月２日（土）記録

日本観光研究学会・関西支部（JITR-Kansai）
ニューズレター『観光学』第１号(2012年度)
発　行：2013年３月10日
発行人：吉兼秀夫
編集人：小長谷一之
【事務局】阪南大学国際観光学部大谷研究室気付
〒580-0033 大阪府松原市天美南1-108-1
Email:otani@hannan-u.ac.jp（事務局大谷）